

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合  
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表  
(2023年1月分)

ご協力ありがとうございました。2023年1月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143社 回答 135社 回答率 94.4%

調査項目	前 月 比						前 年 同 月 比					
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	計	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	計
売上数量	9社 6.8% (8.2)	11社 8.3% (9.0)	45社 34.1% (32.8)	42社 31.8% (29.1)	25社 18.9% (20.9)	132社	15社 11.5% (15.0)	26社 19.8% (16.5)	47社 35.9% (35.3)	31社 23.7% (19.5)	12社 9.2% (13.5)	131社
売上高	10社 7.5% (9.0)	10社 7.5% (11.2)	44社 33.1% (32.8)	45社 33.8% (28.4)	24社 18.0% (18.7)	133社	38社 29.0% (31.6)	39社 29.8% (24.8)	30社 22.9% (25.6)	18社 13.7% (9.8)	6社 4.6% (8.3)	131社
在庫数量	3社 2.4% (4.7)	21社 16.7% (19.5)	80社 63.5% (58.6)	20社 15.9% (14.8)	2社 1.6% (2.3)	126社	9社 7.2% (7.9)	19社 15.2% (18.9)	64社 51.2% (45.7)	21社 16.8% (15.7)	12社 9.6% (11.8)	125社 100.0
販売単価	2社 1.5% (3.0)	9社 6.8% (13.5)	108社 81.2% (77.4)	13社 9.8% (5.3)	1社 0.8% (0.8)	133社	50社 38.5% (40.8)	45社 34.6% (30.8)	30社 23.1% (23.8)	3社 2.3% (2.3)	2社 1.5% (2.3)	130社
収益状況 (粗利)	6社 4.5% (3.0)	11社 8.3% (10.5)	62社 47.0% (45.1)	41社 31.1% (23.3)	12社 9.1% (18.0)	132社	14社 10.8% (9.0)	25社 19.2% (18.8)	42社 32.3% (35.3)	31社 23.8% (17.3)	18社 13.8% (19.5)	130社
稼働率 (生産・ 加工設備)	2社 1.8% (3.5)	9社 7.9% (9.6)	59社 51.8% (44.7)	36社 31.6% (31.6)	8社 7.0% (10.5)	114社	6社 5.4% (10.5)	19社 17.1% (14.9)	56社 50.5% (50.0)	22社 19.8% (14.9)	8社 7.2% (9.6)	111社
入出庫の トラック台数	2社 1.6% (1.6)	5社 3.9% (6.2)	69社 53.9% (47.3)	42社 32.8% (35.7)	10社 7.8% (9.3)	128社	4社 3.2% (8.6)	20社 15.9% (15.6)	65社 51.6% (50.0)	30社 23.8% (21.1)	7社 5.6% (4.7)	126社
	現在の景況感						3ヶ月後の景況予測					
	0社 0.0% (0.0)	8社 6.2% (6.1)	64社 49.2% (53.0)	44社 33.8% (31.8)	14社 10.8% (9.1)	130社	1社 0.8% (0.0)	16社 12.3% (8.3)	85社 65.4% (75.8)	24社 18.5% (12.1)	4社 3.1% (3.8)	130社
特記事項												

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります  
 ②( )内の数字は前月のパーセントです  
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は  
 特記事項欄に別途記載いたします  
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください  
 事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

## 景況実感調査(2023年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 1月は前月比微減となり、穏やかなスタートとなった。紐付きユーザーに動きが出てきたものの、店売りユーザーは相変わらず需要が少なく動きが鈍い。流通としては適正な在庫運用が求められ、紐付き価格の変動に左右されず、価格維持に努めなければならない。
- ② 稼働日は減ったが加工、売上は前月並みとなった。年明けの立ち上がりは遅かったが、後半にかけて巻き返しがあったように感じる。短納期、必要な分だけという引合いがまだまだ続きそう。
- ③ 1月の販売量はここ2~3年で最低であった。見積り依頼や引合いの少なさから、ここしばらくはこの低調さが続くものと思われる。夏場なのか、秋口になるのか、来るべき時期に向けて種まき、設備のメンテナンス等をしっかりと準備しておきたい。
- ④ 各社、値下げ圧力が強く、相場もジリ貧傾向。春節明けの中国の動きに注目するとともに、2023年一年を通して中国が打ち出す政策が気になる。2~3月、トヨタも下方修正が続き先行き不透明。
- ⑤ 稼働日数減と社員のコロナ、インフル感染者が多数出てしまい、各ライン人員不足で調整作業のため数量が減少してしまった。特に家族感染が多く、各自健康管理に注意したい。

### 中板

- ① 年明け1月は、昨年来の需要低迷を引きずり売上、加工共に昨年9月以来連続して前年同月比で2桁以上の減少を記録した。コイルセンターの長期的な運営を考えると、近年の需要動向から規模の拡大にその解を求めるのは難しく、また供給面からは輸入材・電炉材との関連や、国内高炉の最近の店売り分野に関わる方針に懸念も感じる。更に人手不足に加え、機械の老朽化によるトラブルなど深刻な課題がここに来て山積しており、コロナ禍の中で打撃を受けてこられた業種に比べると、安穩とした経営を続けることができたコイルセンター業界も循環景気の上昇を待っている場合ではないのかもしれない。
- ② 荷動きの悪い状況が続いている。電炉材を中心として1月に入り更に下がり、仕入れ値を考えてもここが底だと思われる。年度末に向けて無理な購入を控え、在庫調整をしている。市中で材料を聞くと、電炉材に切り替えたことで歯抜けも出ている。当面は同じような状況が続くと思われる。

## 厚板

- ① <全体感>厚板を扱う各分野においては、全体的に低調。建産機も一部メーカーを除き、世界的経済鈍化の影響に鑑み、弱含みの計画に修正。製鉄メーカーの供給は足下ではタイト感はないものの、2023年には各メーカーとも生産設備集約や大規模改修が予定されており、第3四半期に向けてメーカーからの供給がタイトとなってくる事が予想される。<分野別>建機分野では、東南アジア市場やマイニング機械を中心に前期比増の生産を計画しているが、一方で景気後退懸念による計画下方修正の動きもある。産機分野も来上期は、今上期並みの計画となる模様だが、欧米の利上げによる設備投資ペースが鈍化しており、先行きは不透明。店売り分野では、大型建築案件に時期ずれが発生。中小物件では中止や延期が徐々に増えており、流通の在庫水準も依然として高く、活気がない状態が続く。
- ② 当社の建設機械向けは好調を維持。第4Qも引き続き好調を維持の見込み。店売りは鋼材価格の高騰の影響もあり、また案件の延期や中止などもあり、年度末に向かい不透明なところが多分にある。

## 一般開金鋼

- ① 最近、工期の遅れや資材高騰により倒産情報が多くなっている。気を付けて商売をしなくてはならない。
- ② 前月比売上増となるも収益状況は横這い。売上増は一部顧客の受注増により、収益状況横這いは同業他社との競合結果。競合しても利益を確立できる体制へのシフト急務。直近の鋼材価格急騰で顧客財務の瑕(きず)の推移にも今後注視が必要。

## 工開金鋼

- ① 季節なりの需要で迫りに欠ける状況もあり様子見、買い控えムードが継続。旺盛だった加工も徐々に落ちつき、先々の不安からか、年末から聞こえてくる安値の件数が増加。しかし、メーカーのエネルギーコスト上昇はもはや周知の事実と等しく、仕入れ単価が下がる可能性は極めて低い。流通として需要云々で下を向いている場合ではなく、慎重な対応が肝要である。

## 異形棒鋼

- ① 市中置き場渡しの荷動きは変わらず。
- ② 12月以降、荷動き低調が続き、我慢の環境である。メーカーは4月より電力料金等のコストアップを控えて強気販売姿勢であり、流通としては今後、市況押し上げにて対応していきたい。

## 平鋼

- ① 1月も先月と同様に稼働日が少ないが、定尺の荷動き自体も非常に悪かった。建築向け加工品は物件が少ないながらも動いている。ユーザー向けは年度末以降の動きを注視している。
- ② 1月は12月と同様に稼働日が少ないが、12月以上に荷動きは低迷している。1月～3月の建築案件は、今のところ大型案件は少なく中小案件中心なので、数量は伸びない。

## 車重量開金鋼

- ① 例年だとやや高稼働が残っている状態だと思うが、受注があまり良くない状況で、繁閑のズレを感じる。

## 鋼管

- ① 数量は前年比横這いであったが、売上、粗利共に増加。景況感は良くない状態が今後も続くと思われる。
- ② 店売りは1月中旬からかなり悪い状況になってしまっている。先の見積りも少なく厳しい状況が続きそうだ。

## 構造用鋼

- ① 需要は、自動車関連の回復は時間が掛かりそうな状況。建機は堅調だが、一部では荷動きが落ち着いてきている。半導体関連も調整段階か。荷動きは紐付き、店売り共に横這い。在庫は、メーカーからの入荷が早まっていることもあり増加傾向。価格は、メーカー値上げ分の転嫁を推進しており、大方浸透しつつある状況。

## 磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品の出荷は月を追うごとに悪化している感がある。また、先行きについても改善の見通しが全く立たない状況となっている。一部建機は好調を維持しているが、数量も限られていることから、目に見える形での出荷増には結び付かない。店売りは低位ながら安定した出荷であることが、唯一の救いといえる。

## その他

### <ナマシ鉄線・異形バーインコイル>

- ① 依然として全般的に需要は低調。エネルギーコストの上昇等、不安要素が多く、コスト削減に注力せざるを得ない状況。

### <鉄スクラップ>

- ① 大幅な値動きも、活発な荷動きもない年明けのスタート。海外市況が少し回復してきているようだが、旧正月明けの中国の動向、またスクラップ輸入国の要トルコの地震の影響が、どの程度スクラップ市況へ影響を与えるかも今後の不安要因の一つとなった。

### <金属表面処理>

- ① 先月同様、ショットブラストの処理トン数は少なかったが、切板が多かったこと、重塗装案件が続いたことにより売上は確保できた。重塗装案件が続く背景としては、深刻な人手不足があると思われる。当社も、人手を確保しようと努力しているが厳しい状況が続く。